

事業の概況

■ 経営環境等

我々系統組織を取り巻く環境は、人口減少・高齢化などの構造的な問題による事業基盤への影響に加え、日本が金融緩和政策を継続するなかで日本以外の先進国が金融緩和縮小等に舵を切るなど、国内外の投資環境は極めて厳しい状況にあります。

さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大やロシアによるウクライナへの軍事侵攻など、予測できない世界規模の危機に直面し、経済的・社会的活動の制限を受けて厳しい環境が続いております。

こうした情勢のもと、令和3年度は、中期経営計画（令和元年度～令和3年度）の最終年度として、基本戦略に掲げる「安定的収益還元機能の強化」、「JAバンクえひめ本部機能の強化」の主要施策に取り組みました。

「安定的収益還元機能の強化」については、有価証券の計画的な投資に取り組むとともに、地場企業および農業関連法人などへの新規開拓による貸出残高維持に取り組みました。

「JAバンクえひめ本部機能の強化」では、「農業の夢・ヒアリング訪問」の実施や新型コロナウイルス等により影響を受けた農業者等に対して、「JAバンクえひめ新型コロナウイルス対策資金」等により円滑な資金融通に努めるとともに、各種キャンペーンの実施等による信用事業推進の変革にも取り組みました。

また、地域貢献活動としては、愛媛県と連携し、愛媛県が子どもや子育て世代の支援のために創設した「子どもの愛顔応援ファンド」に愛媛県産米と寄附金を寄贈し、寄贈米を活用した子ども食堂への支援活動を続けております。

以上のような取り組みの結果、経常利益、当期剰余金ともに計画を上回る実績を収めることができました。

■ 業績

令和4年3月末の県内JA貯金残高は、前年対比48億円増加し2兆633億円となりました。

JA貸出金残高は、前年対比74億円増加し3,581億円となりました。

当会の資金調達では、令和4年3月末貯金残高は、前年対比9億円減少し1兆6,748億円となり、令和3年度期中平均残高は、前年対比119億円増加し1兆6,779億円となりました。

一方、資金運用では、預け金残高は、前年対比541億円減少し9,810億円となり、期中平均残高は、前年対比343億円減少し1兆240億円となりました。

貸出金残高は、前年対比67億円減少し935億円となり、期中平均残高は、前年対比21億円増加し965億円となりました。

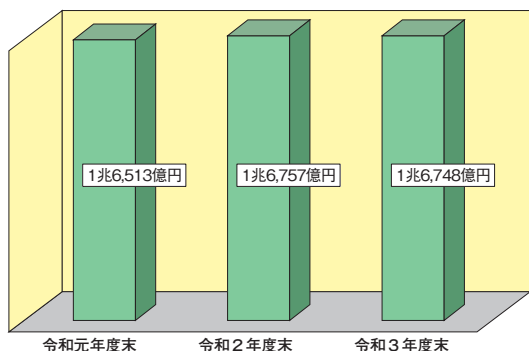
有価証券残高は、前年対比350億円増加し6,224億円となり、期中平均残高は、前年対比333億円増加し5,786億円となりました。

事業収支では、経常収益は167億7千5百万円、経常費用は120億2千5百万円となりました。この結果、経常利益は、前年対比9億5千9百万円増加し47億5千万円となりました。また、当期剰余金は、前年対比6億9千4百万円増加し40億8千2百万円となりました。

■ 資金調達および資金供給の状況

信連の資金調達の状況

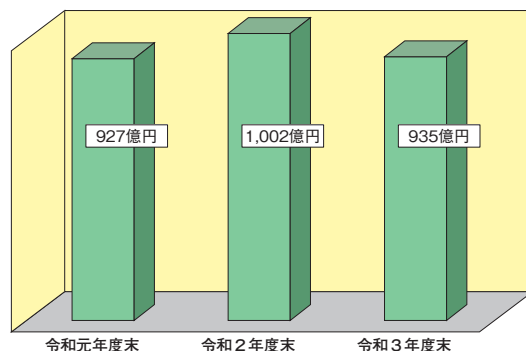
信連貯金等残高の推移



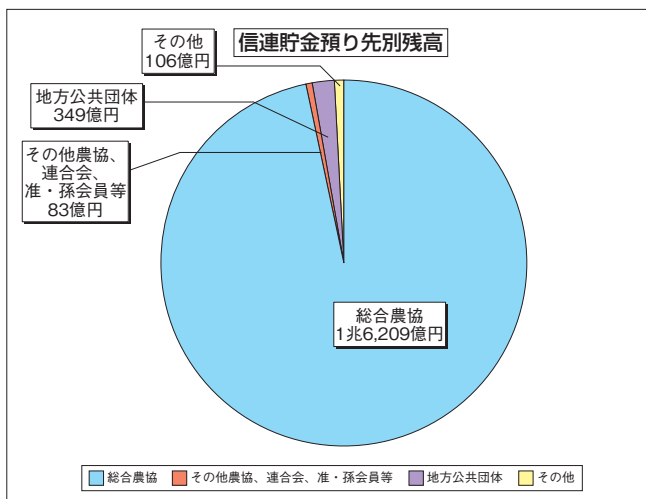
当会の貯金等の残高は、令和4年3月末現在 1兆6,748億円となり、前年対比9億円減少となりました。

信連の貸出金の状況

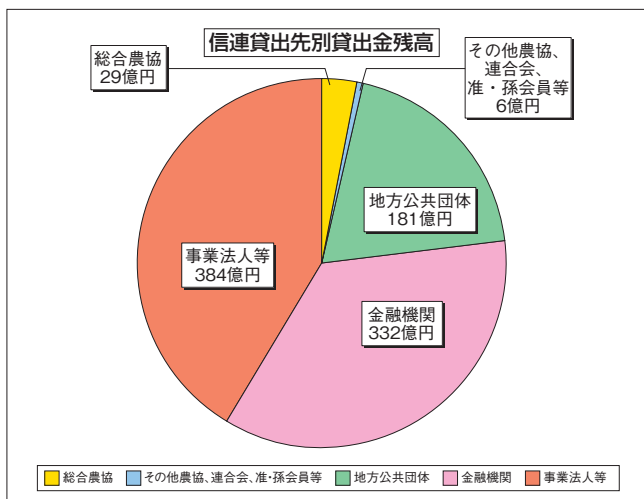
信連貸出金残高の推移



当会の貸出金の残高は、令和4年3月末現在 935億円となり、前年対比67億円減少となりました。



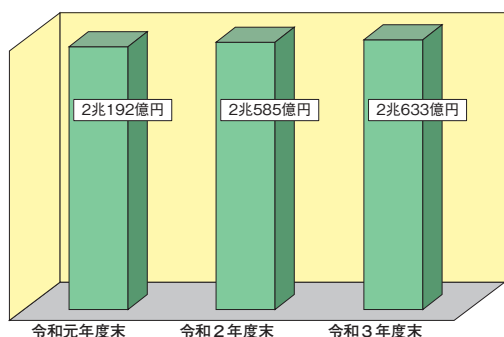
当会の資金調達は主として総合農協（JA）からの貯金によるものであります。



県内JAおよび当会にお預りしている貯金等を原資として、地域の皆さまのさまざまな資金ニーズにお応えするためにご融資を行っております。

JAの資金調達の状況

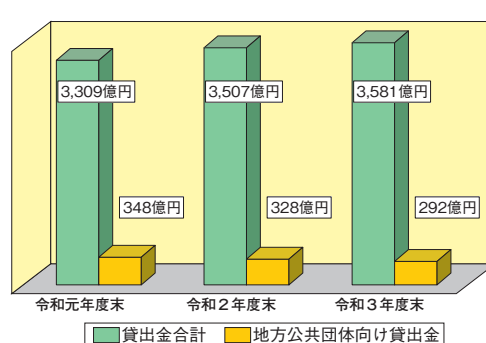
JAの貯金等残高の推移



JAが組合員をはじめ地域の皆さまからお預りしている貯金等の残高は、令和4年3月末現在 2兆633億円となり、前年対比48億円増加となりました。

JAの貸出金の状況

JAの貸出金残高の推移



JAは、お預りしている貯金等を原資として、組合員・地域の皆さまのさまざまな資金ニーズにお応えするためにご融資を行っております。令和4年3月末現在の貸出金残高は3,581億円、うち地方公共団体向け貸出金は292億円であります。